

第1回 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会 議事録

日 時	令和元年 11 月 20 日（水） 13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	小牧市役所本庁舎 4 階 404 会議室
出 席 者	【委員】（名簿順） 関谷 みのぶ 名古屋経済大学教授 長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 校長 前川 泰宏 小牧市医師会代表 佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会代表 木村 正尚 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 土佐 知美 小牧市居宅介護支援専門員連絡協議会 会長 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 江口 はづき 介護施設代表 入谷 陽祐 小牧市介護保険サービス事業者連絡会 訪問看護部会代表 四宮 貴美子 小牧市内地域包括支援センター管理者代表 加藤 三紀子 ボランティアグループ日向ぼっこ代表 鈴木 斉 春日井公共職業安定所 所長 菅沼 澄雄 小牧市老人クラブ連合会代表 佐橋 均 小牧市区長会連合会代表 桑山 美知代 公募委員 小林 静生 公募委員 【代理出席】 山本 将裕 小牧市薬剤師会代表 【欠席委員】 出口 さとみ 春日井保健所代表 水谷 幸一 連合愛知尾張中地域協議会代表 【事務局】 山田 祥之 健康福祉部長 入江 慎介 健康福祉部 地域福祉担当次長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 澤田 昌利 健康福祉部 保険年金課長 西島 宏之 健康福祉部 保健センター所長 河原 真一 健康福祉部 介護保険課課長補佐 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長
傍 聴 者	0 名
配付資料	資料 1 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会設置要綱 資料 2 委員名簿・座席表 資料 3 第 7 次計画の進捗管理シート 資料 4 第 8 次計画の策定スケジュール（案） 資料 5 第 8 次計画の策定に向けた実態調査

	資料 6 一般高齢者用調査票 資料 7 在宅の要介護者用調査票（郵送） 資料 8 在宅の要介護者用調査票（聞き取り） 資料 9 各種計画スケジュール
1. 開会 （1）委嘱状交付 （2）新任委員の紹介 （3）会長、副会長の選任 ・会長に長岩委員、副会長に関谷委員に決定。 （4）あいさつ ・長岩会長あいさつ 2. 議題 （1）会議の公開について ・会議公開で決定。 （2）第7次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況について ・事務局より、資料3：第7次計画の進捗管理シートを用いて、説明。 ・質疑、主な意見は以下の通り。 □ 第4章 いきいきとした潤いのある暮らしづくり 木村委員） ・3ページの特設健診を受ける方が非常に少ないとなっているが、現在、現役で働いている方だと、事業所で健診を受けており、受診率が低い結果になっているのではないか。 事務局） ・この指標については、国民健康保険に加入している方を対象としており、事業所で受けられている方は抜いてある。 鈴木委員） ・7ページの「生きがいくつと社会で活躍できる場の充実」で、シルバー人材センターの記述がある。 ・小牧市のシルバー人材センターは、請負や派遣でやっており、請負は民間が減り、派遣は増えているとの説明があった。 ・シルバー人材センターの会員数は、非常に伸びており、もしかしたら、高齢者の方も働く意欲が高まっているのかと思われるところであるが、片や就業率については、横ばいという状況で、元気な高齢者が増えているとイメージを持った。 ・ただ、ハローワークの現状からみると、実は新規求職者のうち、高齢者の割合が2015年9月は、全体の7.9%であった。 ・昨今、年々増加してきており、2016年は8.7%、2017年は12.7%、今年の9月は15.7%となり、現在、ハローワークでは6人に1人の方が65歳以上の方となっている。 ・シルバー人材センターの役割とハローワークの役割を考えた場合、シルバー人材センターはどちらかと言えば短期の仕事を、ハローワークは比較的期間の長い契約もある。 ・そこで、例えば、ハローワークにお見えになった高齢者の方で、シルバー人材センターの仕事を希望する方であれば、ハローワークがおつなぎをする。	

- ・ 逆に、シルバー人材センターに、もう少し長い仕事が欲しいという方がいれば、ハローワークにつないでいただくような、お互いの行政機関同士の連携を図っていくことで、全体として、高齢者の生きがいがいづくりにつながるのではないかと思います、ぜひ、今後の取り組みに向けて、そういった関係機関の連携も入れていただけると良いかと思う。

長岩会長)

- ・ 65歳以上の求職者が増えていることで、長時間働きたい、働ける方が増えると、逆にシルバー人材センターの人数は、減る可能性もあると考えるか。

鈴木委員)

- ・ ハローワークに登録される方も、求人の状況を見ると、自分には無理と考える方もいる。
- ・ そうした場合、例えば1週間に1時間しか働けない、時々の仕事でいいという話になれば、シルバー人材センターにつながるといったように、お互いにやり取りを行うことが出来れば、シルバーの登録者もそれほど減るとは思えない。
- ・ ただ、元気な高齢者が増え、もう少し働きたいという方が多くなっているのは、事実であり、どのように推移するかは予想できないところである。

長岩会長)

- ・ この計画については、どうしても介護保険の部分に目が行きがちだが、第4章の2にある高齢者の生きがいがいづくりや就労を通じた社会参加も当然入っており、今の意見については、次の計画にどう反映させるか、事務局として考えていただければと思う。

□ 第5章 自立を支え合う地域づくり

四宮委員)

- ・ 1ページにあるとおり、総合相談の件数が増えてきており、また、内容が複雑であり、高齢者のことだけでなく、その家族全体のことに関する相談にも関わるケースが増えている。
- ・ そのため、地域包括支援センターだけでなく、障がい、権利擁護などを含め、様々な機関につなげて対応することが多くなっている状況にある。
- ・ また、認知症施策が展開されているが、昨今は、認知症の相談がかなり増えてきている。

長岩会長)

- ・ 発端は介護の相談だが、今の発言のように生活困窮や息子さんが引きこもりだったり、障がいがあったり、あるいは子育てと親の介護、つまりダブルケアだったりというケースが増えている状況にあると思う。
- ・ 委託先や民間レベルの連携が重要にはなるが、行政内部の連携も強化してきているのか。

事務局)

- ・ 行政内部の連携について、非常に大事になってくるという認識を持っているが、十分にやれているかという点と不十分なところもあると思われ、連携強化に努めたいと考える。

佐橋委員)

- ・ 地域づくりについては、今、民生委員が一生懸命やっており、区の会館を使ってサロンを立ち上げられた。
- ・ サロンには、体の不自由な方や認知機能の低下が疑われる方も参加されており、いろんなゲームなどをして進行しないように活動されているが、なかなか顔を出せず、把握できていない。
- ・ 今後は、支え合いの地域づくりということを考えると協力しなければいけないと思う。

長岩会長)

- ・ 4ページの左②に「地域協議会担当職員」とあるが、これは誰のことか。

事務局)

- ・ 健康福祉部ではないが、地域協議会を所管する課の職員である。

長岩会長)

- ・ それから、4 ページの右②に「安田区モデル」とあるが、これは何か。

事務局)

- ・ 小牧市は、行政区が 129 あるが、その中の一つの安田区において、モデル的に実施した事業ということで、安田区モデルと称している。

長岩会長)

- ・ その区では、要支援者の方に対して何かアプローチをしているのか。

事務局)

- ・ そうである。
- ・ 大規模災害を想定し、実際に地域住民の方で行えるところを見据え、支援が必要な方の中で、例えばすぐに医療行為が必要な方、介護的な支援を必要としている方等を平常時から把握し、災害が発生したことを想定し、実際に支援が必要な方に声をかけ、安否確認をしていく取り組みを始めたところである。
- ・ その際、支援者の状況に応じて分類し、また、安否確認の際には、どのような内容を聞き取りしたら良いかということも含め、自治会の方と一緒に話し合い、様式の作成、訓練を実施したところである。

長岩会長)

- ・ 5、6 ページの認知症施策の充実や 11、12 ページの医療・介護連携について、先生方からコメントをお願いしたい。

前川委員)

- ・ 6 ページに、かかりつけ医の認知症対応力向上研修受講者数とあるが、私も受けていない。
- ・ 恐らく、これを受講した先生は、かかりつけ医の点数が加算できるため、加算を取るために受講しているのではないかと思う。
- ・ 私は、その予定がなかったので、受けていない。

佐々木委員)

- ・ 資料の人数のとおり、非常に興味が薄いということだと思う。
- ・ 愛知県が主体となり、年 4 回程度は実施されており、そろそろ自分自身も含め、受講していくように働きかけをしていきたい。

山本委員)

- ・ 薬剤師を対象とした研修も増えており、何を選択していくかが事業所によってバラバラであり、資料にあるとおり、数字に表れていない状況になる。
- ・ 認知症サポーター養成講座を受講されている薬局も増えてきており、認知症対策に向けた気持ちはあると思うし、昨今、健康サポート薬局として、認知症の初期対応等を担っていこうという動きも出てきている。
- ・ ただ、現状では、健康サポート薬局が認知症カフェを実施していくなど、市の施策まで広まっていない段階にあると考える。

長岩会長)

- ・ 7 ページの左⑩に「認知症初期集中支援チーム」とあるが、これは市役所内に 1 チームを置いているということか。

事務局)

- ・ そうである。市役所が事務局となって 1 チーム、3 名体制で設置している。

長岩会長)

- ・ 今後のチームの増やし方など方針はあるのか。

事務局)

- ・ その部分については、現在、検討段階にある。
- ・ 各地域に分散させていくか、現在の1チームの人数を増やし、一極集中で回していくかについて、検討課題である。

長岩会長)

- ・ 7ページの右③の「事故救済制度」とあるが、市役所が補助金や保険金を出し、損害補償を補填する保険の話か。
- ・ 12ページの右③の「駐車場のマッチング」というのは、訪問診療の先生や介護サービスの事業者が訪問先で車が置けない事態を解消するため、空いている駐車場を提供いただける家庭等を探してマッチングしようという事業か。

事務局)

- ・ 事故救済制度については、大府市等で取り組まれている、出かけた先で列車事故等が発生した場合の損害賠償に関する保険のことである。
- ・ 駐車場のマッチングについては、住民や事業者等の協力をいただき、マッチングしていこうとするものである。

長岩会長)

- ・ 駐車場の確保については、課題になっているということか。

伊藤委員)

- ・ 駐車場がないなどの理由で、場所によっては停められないことがある。
- ・ そういうときは、警察で、駐車許可を取り駐車する場合もあるが、許可を取ったとしても状況によっては、停められない場合もある。
- ・ 今回、市で、駐車場のマッチングシステムが来年4月から始動するという話が出たときに非常に助かると思った。
- ・ できれば、前倒しというか、早期に導入してもらいたいと思っている。

□ 第6章 質が高く安定した介護保険事業運営

長岩会長)

- ・ せっかく立ち上げた事業所が閉鎖するところもあるという話もあった。
- ・ 事業所の倒産数については、毎年報告があるが、全国的にみると増えている状況にある。
- ・ 需要があるのに、事業所として事業を継続するのが厳しいという声もあることを受け、6章の2で「サービス提供事業者への支援」という項目が入っているということだと考える。
- ・ 介護サービス事業所の方が何人かいらっしゃるの、質の向上や事業所への支援について、感じるところは何かあるか。

入谷委員)

- ・ 先日、訪問看護部会の中で、どの事業所でも看護職員の募集をかけても集まらない状況にあるという話があった。
- ・ 募集の仕方などについて、検討をしたが、広告を出すのにもお金がかかるし、こまきつながるくん連絡帳を活用していくなど、引き続き、検討をしていきたいと考えている。

長岩会長)

- ・ 病院では確保できているけど、訪問看護が集まりにくい状況にあるということだと思う。
- ・ 看護学校は、非常に増えているが、需要と供給がうまくいっていないのかもしれない。

土佐委員)

- ・ 新任の介護支援専門員が減少している状況について、私見にはなるが、介護支援専門員の基本資格として、介護職からという方が多い中で、入谷委員の話にあったように、介護の現場職員が集

まりにくいこともあり、介護支援専門員につながっていかないのではないかと考える。

- ・ そうした中、介護保険制度において、要介護者などの相談援助業務を行う介護支援専門員が1人で動くところもあって、孤独な仕事ということもあり、悩みや不安を抱えることが多い業務だと思う。
- ・ そのため、特に新しい介護支援専門員は、経験も少なく、不安などが大きいと思う。
- ・ そこで、介護支援専門員を地域で支えていく仕組みとして、スーパーバイザーの養成を目的とした研修を相談しながら当会のほうで企画しているところである。
- ・ それによって、新任のケアマネジャーの悩みや不安の解消につなげていくことができるようにしたいと思っているのと、同時に経験豊富な主任ケアマネジャー、スーパーバイザーの役割を果たすケアマネジャーも指導力を高めて、全ての介護支援専門員の資質の向上に努めることができるのではないかと考えている。

長岩会長)

- ・ 介護支援専門員の試験も受験資格が変わり、少し難しくなったのと、合格者が減ったので、その影響が出ているのかという感じもする。

江口委員)

- ・ 私たちの施設でも職員の募集はかなり厳しい状況にある。
- ・ 今、発言があったように、職員の育成という部分がすごく課題になっており、私たちは外に職員を研修に出したりできるが、ほとんどのところが出せないでいるという課題があるのも実情である。
- ・ 外の研修に出せない場合、職員の質の向上をどうしていくかが課題になってくると考えられる。
- ・ そのため、全体的な底上げというか、自分たちのところだけということではなく、皆さんで協力しながらスキルアップを図っていくことが、今後の大きな課題になっていくと考える。

長岩委員)

- ・ お三方の話を聞くと、人材の確保も一つ課題であるし、今いる人のスキルアップも課題になってきていて、人がいないと介護事業は回らず、個々の事業所の課題でもあり、行政課題として、どう認識するかというあたりが計画に反映するところの一つのテーマであると思う。

田中委員)

- ・ 介護サービスの総量という部分では、人の確保などいろんな問題があるが、全体的に必要なとされる分量が、もう少し整理していけるといいかと思っている。
- ・ 特に、有料老人ホームのキャパシティや役割など今までの施策では、少し離れたところにあったので、そういったところの情報も把握できるとよいと思う。
- ・ 人の確保については、盛んに言われている生活支援の部分で住民ボランティアの力が必要になってくるので、そのあたりも含めて人材をどのように確保し、育成していくのが課題であると思っており、少し視野を広げて次の計画についてはやっていく必要があると考える。

長岩会長)

- ・ 有料老人ホームの件は、市場ベースで営まれているサービスが行政として把握し切れていない、集約し切れていない状況にあるということか。

田中委員)

- ・ そうである。行政では把握しきれないと思う。
- ・ 私たちの現場でも、なかなか情報を集約しきれない部分があり、個々の情報をつなぎ合わせながら見ている状況である。

長岩会長)

- ・ そういった部分についても、社会資源として活用できる可能性があるのも、そこも同じ鍋の中に入れて議論をしたほうがいいということだと思う。今後、検討していければと思う。

(3) 第8次小牧市高齢者保健福祉計画の策定スケジュール案について

(4) 第8次小牧市高齢者保健福祉計画の策定に向けた実態調査について

長岩会長)

- ・ 本日は、時間の都合により、各設問に対する意見聴取は省略させていただく。
- ・ 何か意見がある場合は、今月中を目処に事務局までお寄せいただきたい。

(5) その他 高齢者保健福祉計画の計画期間について

- ・ 次期計画では、地域福祉計画など福祉系の計画と統合していく考えについて、了承を得る。

関谷委員)

- ・ 2点ある。
- ・ 1点目は、これから実施する調査について、前回の計画策定時では、調査②の方だと思うが、回収率が高くはなかったと思う。
- ・ 回収率を上げるというか、いろんな方の情報を得ることが大事だと思うので、回収率を上げる工夫をしていただけると良いかと思う。
- ・ それが次回計画の検討のベースになると思うので、よろしくお願ひしたい。
- ・ 2点目は、進捗状況の達成状況に関する考え方について、いつも難しいなと思う。
- ・ 計画値の達成、未達成だけで判断し、○×を付けた場合、みんなが健康だから計画値に届かないケースや、先ほどの説明にあった在宅の看取りについて、×は付けているがという補足の説明があったように、単純に数値だけで見てよし悪しを判断するのではなく、目的としているものは何であり、それがどのように達成されていくのかとか、達成されなかったのはこういう面がよかったからだとか、ここが欠けているからだというような反省や振り返りの仕方が大事ではないかと思った。

長岩会長)

- ・ まさに分析のところだと思う。
- ・ それについては、事務局でもしていただき、我々としても、これは×だが、別に良いのではないか、○だが、少し評価が甘いなどの議論をしていく必要があると考える。
- ・ 公募委員のお二人は何かあるか。

小林委員)

- ・ 実態調査について、気になったこととして、先ほど発言があったように回収率が大切だと思う。
- ・ ボールは投げたが、返ってこないということでは、実施する意味がないと思う。何とか高い回収率を目指し、頑張っていたきたい。
- ・ 私自身、オレンジカフェ、認知症カフェに携わっている関係で、先ほどの5章の地域における支援について期待をしているところでもある。
- ・ 今後、議論を進める中で、話していきたいと思っている。

桑山委員)

- ・ 実態調査でお願いしたいのは、分かりやすい表現にしていきたい。
- ・ 先ほどの説明で、「アウトリーチ」と言われたが、初めて聞く言葉であった。
- ・ また、施設の形態などもたくさんあり、こんなに細分化されていることが分かり、それらを利用したい場合、どこに相談やお願いをしたら良いか分からないというのが率直な感想である。

菅沼委員)

- ・ 私は老人クラブを代表して参加しているが、介護保険や福祉サービスということになると、どこまで踏み込んだら良いのかという問題がある。

長岩会長)

- ・ 老人クラブについては、地域づくりとか生きがい活動に関して期待されることが多いと思う。

加藤委員)

- ・ 介護予防の推進に向けてボランティアをしており、その活動を通して感じたことなどをボランティアの視点から発言していきたい。

事務局)

- ・ 事務局にて、議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。

3. 閉会